



メタモルフォーゼ×アート×漂着

丹後アート会議

— 大地は器 — tangoart.jp

アートプロジェクト 1018 年 9 月 2 日（日）－ 9 日（日）京丹後市峰山町

主催：丹後アート会議 ヒカリ美術館 協力：旧田中家具

アートプロジェクト (旧田中家具)

■ 9月1日 (土) PM6時～7時 山崎昭典ソロライブ

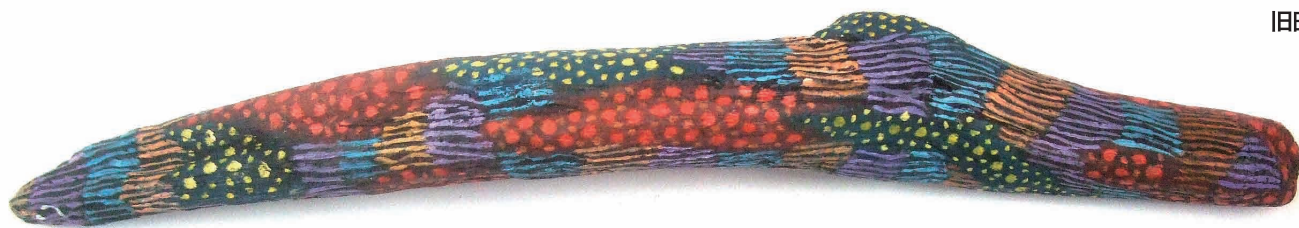
■ 9月2日 (日)～9日 (日) 「メタモルフォーゼ×アート×漂着」展 AM10時～PM4時

参加アーティスト 池田修造 太田敬二 岡本タロー 沖佐々木範幸
阪井義彦 中前寛文 東村幸子 溝渕真一郎
ヨシダ ミノル

◆ 9日 (日) 漂流物でワークショップ AM10時～PM4時



2017年 日本海×アート×漂流



流木に彩色

メタモルフォーゼ×アート×漂着

■ メタモルフォーゼ×アート×漂着

Metamorphose (メタモルフォーゼ) 変形や変身を意味する。形状が著しく変化することをいう。私たちの周りにも多くの形状や物の意味が変わる現象がある。今回の企画展は変形や変身をテーマにしたものである。

私たちは「産業革命」以後、工業化の産物として急激な変化を遂げ、ここ 200 年で多くの工業製品を生み出し、人間の生活を一変させ、社会の全てのモノが新しい局面を迎えるようになった。著しい変化によって過去のモノを「産業廃棄物」として捨てられていく状況は巨大なモンスターの排泄物のようなものである。それは、ありとあらゆる場所に放置され、山や海を汚染していく。変化していく環境状況はひとつの通過点なのかもしれないが、今後、未来に展望があるとしたら人間が自然に寄り添った創造力こそが未来のカタチを造り出すのだろう。現在の私たちが住む地域は PM2.5 や世界的に問題視されている二酸化炭素、大量に生産されたプラスチック製品が漂着物として海岸線を汚すなど環境も大きく変わってきた。これも限りない欲望への創造なのかも知れない。

本来、日本文化はデリケートな季節感や地形が創り出した産物とすると、時と場をより深く知ることによって地域文化が提案できるのではないかと。「大量生産」・「大量廃棄」は 20 世紀で終わりにしたい。新しいキーワードとして文明の減速も含めたメタモルフォーゼを期待したい。



丹後アート会議

— 大地は器 — tangoart.jp

アートプロジェクト 2018年9月2日 (日) — 9日 (日) 京丹後市峰山町

■ お問い合わせ: ヒカリ美術館 mail@hikaribijyutukan.com